

続・IXの現状と新たなる展開 —地域IXの展開と果たすべき役割—

JANOG49

2022/01/26

石田慶樹

続・IXの現状と新たなる展開 —地域IXの展開と果たすべき役割—

概要

JANOG48において、「IXの現状と新たなる展開 —サステナブルなIXを目指して—」という講演を行いました。本プログラムはその続編となります。今回は、地域IXを構築している3名の発表者の経験と知見に基づき、地域IXを継続的に運用していくために必要な事項について共有し、地域IXを含めて日本のインターネットの構造のあり方について議論を深めました。今回は、その後の地域IXの動きについて紹介するとともに、さらに具体的に地域IXの運用していくために必要となる資源やそれをどのように充足していくか、また果たすべき役割と得られる成果について議論を行い、日本のインターネットの構造の在り方について議論の場を提供します。

登壇者

石田 慶樹
(日本ネットワークイネイブラー株式会社)

日里 友幸
(ケーブルテレビ株式会社)

金子 康行
(株式会社グローバルネットコア)

木脇 大介
(BTV株式会社)

自己紹介



- 氏名：石田慶樹(いしだよしき)
- 所属：日本ネットワークイネイブラー株式会社
- 経歴：
 - 1998年10月 メディアエクステンジ株式会社へ入社
 - 2005年10月 株式会社パワードコムに入社
 - 2006年1月 合併によりKDDI株式会社に所属
 - 2006年12月 日本インターネットエクステンジ株式会社に出向
 - 2007年3月 同社 代表取締役社長
 - 2016年6月 日本ネットワークイネイブラー株式会社 代表取締役社長
 - 2021年7月 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー

前回の振り返り(1/4)

The screenshot shows the website for the JANOG48 Meeting. The main heading is "IXの現状と新たな展開 — サステナブルなIXを目指して". Below this, there are sections for "場所" (SOPHA), "日時" (Day 1: 2021年7月14日 [水] 17:00~18:00 (1時間00分)), and "概要" (Summary). The summary discusses the impact of COVID-19 on internet traffic and the need for sustainable IX. It lists speakers: 石田慶樹 (Ishida Keiki), 金子康行 (Kaneko Yasuyuki), 日里友幸 (Hiriyu Tomoyuki), and 西田圭 (Nishida Kei). There are also social media links and a footer with the date "© 2021 JANOG48 実行委員会 The Conference | Developed by Rara Theme Powered by WordPress."

登壇者

石田慶樹

(日本ネットワークイネイブラー株式会社)

金子康行

(株式会社グローバルネットコア)

日里友幸

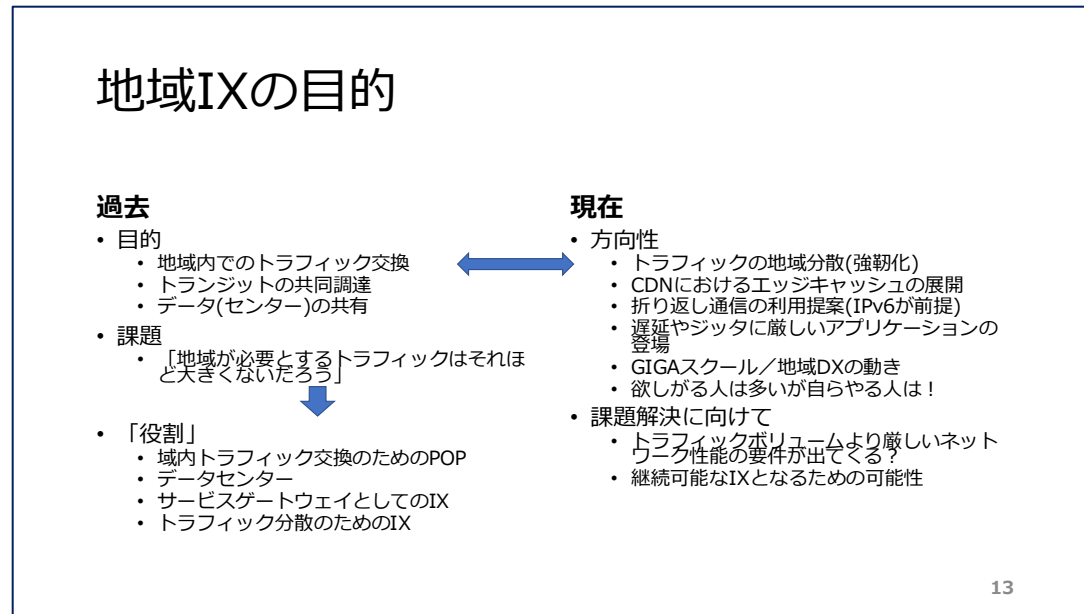
(ケーブルテレビ株式会社)

西田圭

(株式会社QTnet)

前回の振り返り(2/4)

石田



金子さん



前回の振り返り(3/4)

日里さん

tochi gix 地域IXに重要だと感じたこと（天地人）

● 原文
『天時不如地利。地利不如人和。』《孟子》公孫丑から

● 読み下し文
『天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず』

● 意味（コトバンクより）
天の与える好機も土地の有利な条件には及ばず、
土地の有利な条件も民心の和合には及ばない。

『天の時』
➢ 先駆者、人との出会い
➢ タイミング

『地の利』
➢ CATV事業者が隣接していた
➢ FTTH化が進められていた

『人の和』
➢ コミュニティ
➢ 地域・故郷を良くしたいという思い

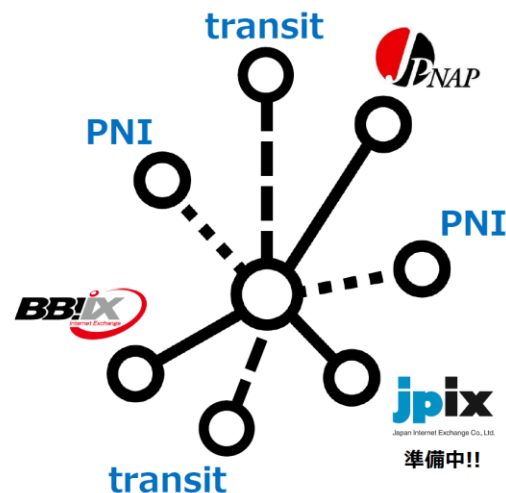
上記3つは如かずというわけではなく、ともに重要だと感じました。



6

西田さん

「九州にIXを!!」と思ったきっかけ



この場所(環境)を
QUIXと呼びます!

Copyright(C) 2021 QTnet,Inc. All rights reserved.

きらきら、つながる。QTnet

前回の振り返り(4/4)

サステナブルなIXを目指して

No Community,

No IX!

本日のこれまでのセッションの振り返り

- 地方の拠点IXからの脱却
～日本の西側にあるIXの魅力
とは！～
- 地域IX？それとも拠点IX？
～地域ISPからみた福岡IXへの期待～

地域IXの必要性をもたらす(した)もの

IXの構造変化

顧客間の相互接続

- 地域のアイボール間で交換されるトラフィックは微量
- 地域IXが要望されても実現されなかった最大の理由

新たなIXの機能の付加

- 分散による強靱性の確保
- 遅延に対する要求

IXの変化(進化?)

単なるL2IX

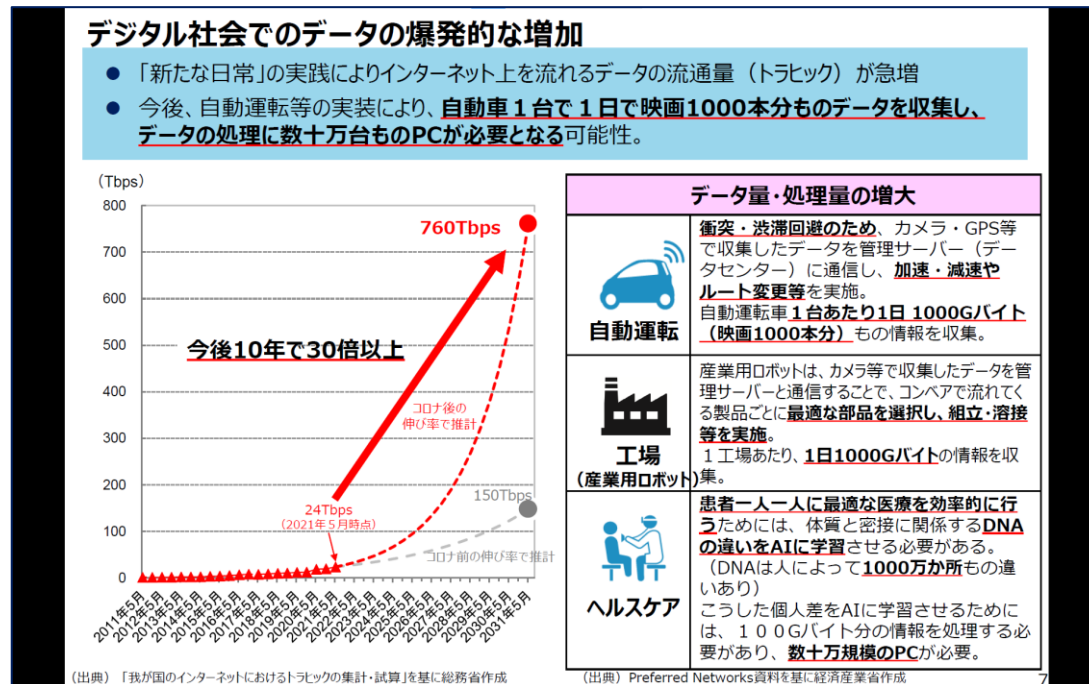
コンテンツとアイボールの
橋渡し

キャッシュの設置

高機能化(MEC?)

地域IXのニーズ

- トラフィックの爆発
- コンテンツはエッジのより近くへ
- エッジ側にアイボールの集約点が必要



デジタルインフラ(DC等)整備に関する有識者会議
第1回事務局説明資料 2021年10月19日
経済産業省、総務省

地域IXのシーズ

note

キーワードや作者名で検索 🔍 ログイン 会員登録

▲ 新型コロナウイルスに関連する内容の可能性のある記事です。
新型コロナウイルス感染症については、必ず1次情報として厚生労働省や国立感染症研究所のウェブサイトなどの信頼できるとされている発生状況やQ&A、相談窓口の情報もご確認ください。またコロナワクチンに関する情報は国立感染症研究所のウェブサイトをご確認ください。 ※非常時のため、すべての関連記事に本注意書きを一時的に出しています。

保育園落ちた。東京脱出した。～シリコンバレーで働いていたネットワークエンジニアが東京に引っ越したけど、結局広島に移住することにした話～

👤 Tajiri Tachya
2021年12月28日 01:14

地方在住 Advent Calendar 2021 の12/1の記事です。これ書いてるのは12/25

👍 31 📄 📄 📄 📄 📄 📄

▼ 目次

- TLDR / 文章長すぎて読んでられないよ！という人へ
- はじめに
- 2019年10月ごろ: 妊娠発覚。保活開始。
- 2020年3月: コロナ禍 突入
- 2020年8月: 緊急事態宣言中に長男誕生
- 2020年11月: 保育園 入園 第一次申し込み
- 2021年2月上旬: 第一次申し込みの結果 全敗
- 2021年2月上旬: 大家族会議
- 2021年2月上旬: 候補地として広島県広島市を見つける
- 2021年2月中旬: 東京の第二次留置の申し込み & 広島市の第二次留置の申し込み
- 2021年3月中旬: 結果発表。
- 広島市に移住してどうだったの？
- 地方移住して困ったことないの？
- 一生広島に住み続けるの？不安は無いの？
- 最後に

YAHOO! JAPAN

企業情報 ニュース サービス テクノロジー CSR 採用情報 🔍

🏠 | ニュース >
ヤフー、通勤手段の制限を緩和し、居住地を全国に拡大できるなど、社員一人ひとりのニーズにあわせて働く場所や環境を選択できる 人事制度「どこでもオフィス」を拡充

プレスリリース 2022.01.12

シェア 846 ツイート 812 Pocket

ヤフー、通勤手段の制限を緩和し、居住地を全国に拡大できるなど、社員一人ひとりのニーズにあわせて働く場所や環境を選択できる 人事制度「どこでもオフィス」を拡充

～ オフィス回帰の動きがある中、
オンライン中心の働き方をさらに推進することで、
個人と組織のパフォーマンスを最大化 ～

～ 社員約8,000人それぞれが
最適な働き方を選択することでウェルビーイングが向上。
ダイバーシティの推進や、
居住地域に左右されない優秀な人材の採用も可能に～

- コロナ禍によるテレワークの普及と場所を選ばない生活
- インターネット／クラウドへの接続性の均質化の必要性

あらためて地域IXの必要性

- 技術的な観点

- アーキテクチャの議論

- 社会的な観点

- コミュニティ作り
- サステナブルな仕組み

「デジタル田園都市国家」

資料 8

2021年11月16日

意見書

慶應義塾大学
村井純

2001年のIT戦略の開始から、最初の5年間で我が国が誇るブロードバンドインフラの構築を実現することができた。今回デジタル政策として取り組むべきことの1つに20年経ったデジタルインフラストラクチャを全く新しい技術により、全く新しい使命のために、日本列島の新しいプラットフォームとして完成させる必要がある。

チェックポイントは以下の通り。

1. 5Gによるモバイル網が、国民すべてに利用できる整備が整っているのか。
2. そのバックボーンとなる光ファイバー網が全国あらゆる行政組織を含む十分なカバレッジを実現しているのか。
3. デジタルデータが格納され、処理されるデータセンターが東京1極集中でなく安全な列島への分散を実現しているのか。
4. 日本を取り巻く海底ケーブルが、安全保障上の観点も含め、分散した陸揚げ局をへて世界といつでも繋がるグローバルインフラとなっているのか。

このような、「デジタル田園都市国家のスーパーハイウェイインフラストラクチャ」は、次のような観点での制度とルールの抜本的な見直しと整備が必要だ。

- 1) 各府県ならびに、担当の官民機関が連携する必要がある。
- 2) 1700+の地方自治体と国が連携する必要がある。
- 3) 市民とコミュニティが適切な役割を果たす。

以上

No Community \Leftrightarrow No IX

19:30~ 野良BoF
「地域IX BoF」